“Logistics Innovation For Efficiency”

LIFE TIMES

三菱化学物流株式会社
http://www.mclc.co.jp/

平成２８年７月１日（金）発行　【隔月（年６回）発行】
発行部署　：ソリューション営業第２本部ソリューション営業部
住所　：東京都港区芝大門一丁目１番３０号
電話番号　：０３－５４０８－４６００
発行責任者　：古田　泰幸
お問合せ窓口：石山　義裕

第124号

［目　次］

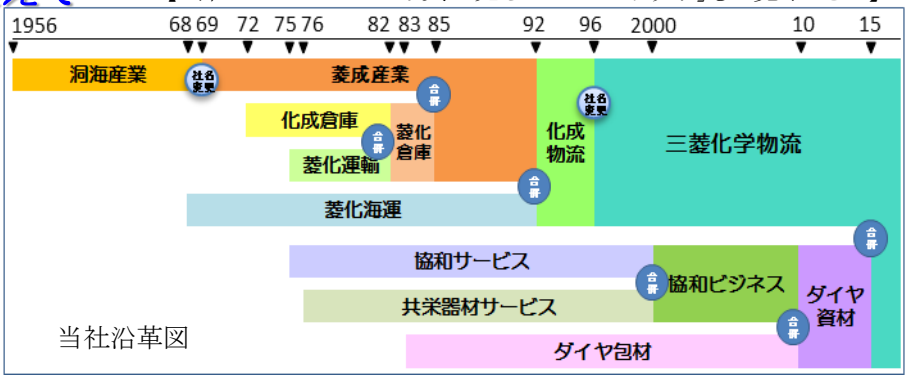
1. 当社60周年の創業を迎えて
2. 尼崎油槽所　労働基準協会長無災害表彰　特別優秀賞　受賞
3. 特別管理化学物質の自主的管理について
4. ヘルスケア営業部　加須センターのご紹介
5. 場所紹介　~水島支社　営業部倉庫課（岡山県岡山市）の巻~
6. 物流業務におけるウェアラブルロボットの可能性
7. Japan　IT　Week　春　2016　参加レポート

1. 当社60周年の創業を迎えて

【当社ホームページ「写真で見るMCLCのあゆみ」もご覧ください】

当社が昭和31年（1956年）に北九州黒崎の地に洞海産業社として設立されてから今年で60年となりました。

また、「三菱化学物流」となってから20年、インドネシアのPT.Lintas Bakrie Kasei（現 PT.Lintas Buana Kasei）社発足から同じく20年と、皆さまのお陰で記念すべき年を迎えられました。



当社沿革図

当社は創業以来、化学品物流の世界で60年にわたり、陸運と海運を柱とした事業展開を通じた現場力により、物流品質の向上、安全・QA等に関する独自のノウハウ・技術を培ってまいりました。さらに、液体危険物用のタンクヤード営業、内航・外航におけるケミカル船の運航、国内各地での自社通関業務などの機能を充実、アジア各国での現地法人展開による複数の物流拠点の保有など、国内外一貫物流サービスを提供できる数少ないユニークな物流会社に成長してまいりました。

2015年4月にはダイヤ資材社との合併を果たし、従来培ってきた総合物流機能に包装資材供給機能を融合させたことにより、原材料、包装資材の供給から包装、構内作業、保管、出荷、配送に至るまでのサプライチェーン全体を見据えた総合物流ソリューションの提案、実務遂行能力の増強、サービスの高品質化を実現できることとなりました。

さらに、2016年4月からスタートした5か年の中期経営計画「MCLC APTSIS 20」(2016年4月～2021年3月)において、重点施策としてGemba-ryoku（現場力）、Group、Globalの“3つのG”を掲げながら、三菱ケミカルホールディングスグループにおける物流の中核的役割を担い、物流環境の変化に適切に対応しながら、物流基盤を整備していくことにより、“KAITEKI物流”を創造することで化学品業界全体に貢献し、あらゆるステークホルダーから信頼される化学品物流会社日本一を目指してまいります。

2. 尼崎油槽所　労働基準協会長無災害表彰　特別優秀賞　受賞

当社尼崎油槽所は、4月27日に尼崎労働基準協会長無災害表彰で最高位にあたる「特別優秀賞」を受賞致しました。尼崎労働基準協会長の無災害表彰制度に参加して以来、33年間労働災害ゼロを継続しており、7回目の「特別優秀賞」となりました。

当油槽所では、「安全QAは物流業務のすべてに優先する」という経営方針、当社のRC（レスポンシブルケアケア）活動方針に基づき、保安・安全管理をおこなっています。日々の業務においては、管理監督者による職場巡回を通じた不具合摘出や作業者のヒヤリハット活動等をおこない情報を顕在化、共有化して、油槽所全員で危険の芽を摘む予防活動をおこなっています。さらに設備の不具合等については「設備不具合改善要望シート」を作成し提出する運用を実施しており、提出されたヒヤリハットや要望については、対応状況を管理者から現場へフィードバックする仕組みを構築して、確実な進捗管理と安全意識の向上に努めています。また、4M（作業者、機械・設備、原材料、作業方法）変更時においては、SA（安全性評価）を油槽所内だけでなく知見を持つ外部の人の意見も取りいれながら確実に実践し、安全性の確認や危険予知をおこなっています。これらの活動とともに、「無災害記録を1日でも伸ばそう！」という全所員の心掛けが33年間労働災害ゼロの継続につながっています。

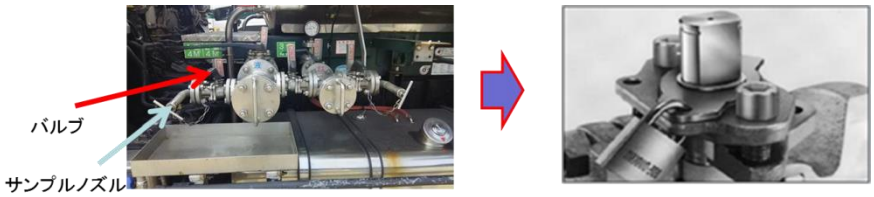
経年化したタンクの更新やベテラン社員から若手への技術の伝承等の課題がありますが、油槽所に特化した教育プロジェクトを実践しながら今後も更なるレベルアップを目指してまいります。

3. 特別管理化学物質の自主的管理について

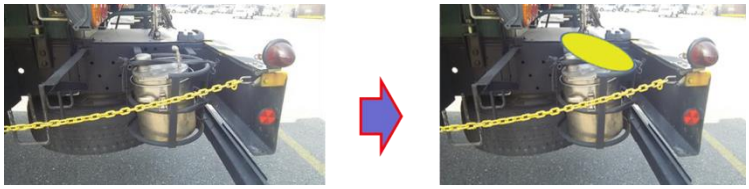
当社は、化学品を取り扱う物流会社として、毒劇物、高圧ガス、危険物等については、長年培った技術力をベースに法令を遵守した安全管理を実施しています。毒劇物には該当していない化学品であっても、急性毒性が区分3以上の毒性の強い物資については、特別管理化学物質と称して毒劇物取締法に準じた管理を行うことで、お客様に安心を提供するよう取り組んでいます。また、盗難・紛失リスクに対しても、万全を期すよう対策を始めています。

具体的には、倉庫の保管管理及びバルク輸送において、次の5項目を実施しています。

①各倉庫の出入口に施錠する。
②倉庫内では他の製品と保管場所を区別する。
③特別管理化学物質と表示する。
④容易に抜き取り可能な排出口のバルブに施錠する。
⑤残液回収容器は、ローリーやコンテナに固定し施錠する。



【④サンプル】


【⑤サンプル】

当社は、化学物質の自主管理に取り組みKAITEKI物流を創造することで化学業界全体に貢献し、あらゆるステークホルダーから信頼される化学品物流会社日本一を目指します。

4. ヘルスケア営業部　加須センターのご紹介

埼玉県の加須市周辺は、関東一円への配送拠点として各社が数多くの物流センターを構えており、圏央道に隣接している交通面での利点から現在も積極的な物流施設開発が続いている地域です。この地域では、当社も自社倉庫として首都圏ロジスティクスセンターを構え、樹脂や化学品を中心に長年にわたり営業活動を行っています。

ヘルスケア営業部のお客様は、医薬関連を中心に高付加価値商品を扱っており、倉庫に対しては通常の化学品と異なり温度管理やセキュリティーに加え、衛生面、BCP面で高い機能を要求されます。そこで、昨年LSIメディエンス社の診断薬物流センターの元請けを受託した際には、A社が加須に新設したヘルスケア専用倉庫を起用し、ヘルスケア営業部加須センターとして昨年12月より首都圏ロジスティクスセンターによる管理の下で保管業務を開始しました。6月21日からは全国出荷が始まり本格稼働しています。医療と健康分野はKAITEKI物流のメインストリームの一つです。今後も積極的な営業活動を推進してまいります。

5. 場所紹介　～水島支社　営業部倉庫課　(岡山県岡山市)の巻～

当社水島支社営業部倉庫課のB社駐在所は2007年から業務を開始し、現在1名体制でB社製品の場内・倉庫・輸送管理に日々奮闘しています。

駐在所のある岡山県岡山市北区建部町は岡山市の最北地域で岡山県のほぼ中央に位置し、近世は備前池田藩の家老、建部池田氏の陣屋を中心に繁栄しました。

町の中央を流れる旭川は、全長141．88km、流域面積2040km^{2}に及ぶ県下三大河川の一つです。かつては、高瀬舟の航路であり、今も川釣りの名所として多くの名産や特産を育んで来ました。町内では各種の釣り大会が開かれるほど、県内外の釣り客が集まり、川釣りのメッカとして全国的な知名度を誇っています。

また、年間通して楽しむことが出来る「たけべの森公園」は、春季には広大な自然の中で約100種15,000本の桜が華麗に咲き乱れ、特に1.5kmからなる枝垂れ桜のトンネルは圧巻の景色です。初夏になると進入路沿道の3,500株ものアジサイが、訪れる方々を魅了します。

最後に建部町の特産品ではございませんが駐在所の近くにあり、近隣住民に長く愛されているうどん屋(「大学うどん」)が絶品で、特に「バッテラ定食」がお勧めでございます。近くにお越しの際は是非、ご賞味頂ければと思います。

【たけべの森　桜まつり】

【旭川】

6. 物流業務におけるウェアラブルロボットの可能性

リハビリや自立動作，介護動作支援等、福祉領域を中心にウェアラブルロボットの実用化が進みつつあります。また、メーカー各社の開発，普及に向けた取組みや認知度向上も相まって、最近では福祉領域以外での活用も注目されています。

物流現場においても社員の高齢化や作業の効率化、勤務環境の改善等から、荷役作業の負荷軽減が必要とされています。この解決策の一つとして当社でもウェアラブルロボットの活用を調査，検討しており、先頃も株式会社イノフィス（東京都新宿区）が開発したウェアラブルロボット「マッスルスーツ®」について実機調査を行いました。当装置は圧縮空気で作動する人工筋肉を用いて補助力を得る仕組みで、装着により荷物の持ち上げや中腰姿勢の維持等で負荷軽減が実感できました。

実作業におけるテストや導入コストと効果の検証等、ウェアラブルロボットの活用には検討すべき課題もありますが、新しいツールとして今後も更なる発展が期待されます。

当社社員によるマッスルスーツ®装着テスト風景

7. Japan IT Week 春 2016　参加レポート

2016年5月11日～13日までの3日間、東京国際展示場（ビックサイト）で開催された「Japan IT Week 春」に参加してきました。

この展示会は、「情報セキュリティEXPO」「通販ソリューション展」など、12のIT専門展示会から構成されている日本最大級のIT展で、全体で約1,600社が出展し、3日間の来場者数は約89,000人にのぼったということです。

私たちは、IoTやM2Mを活用したセンサー、測定器、その他様々なアプリケーション等の展示が一堂に集結している中、近年大きな注目を集めている「IoT/M2M展」を中心に見学しました。

この「IoT/M2M展」では、商業施設の天井に専用機器を設置し、様々な環境データを管理し自動で空調機器をコントロールを可能にしたり、車両機器のGPS機能を利用し運行管理を実施し渋滞予測などに活用したりと最新技術に圧倒されました。

今後も積極的に展示会やセミナーに参加していき、最新技術を取り込み、お客様の要望に沿うような効率化の提案ができるように取り組んでいきたいと思います。10月にも「Japan IT Week 秋」が開催されますので、興味のある方は参加されては如何でしょうか。

編集後記

ソリューション営業部　　木渕

4月中旬に発生した熊本地震から早2か月が経過しました。現地では未だ余震が続いており、住民の皆様は不安な日々を過ごされている事と思います。一日も早く余震が鎮静化し復興が進むことをお祈り申し上げます。

この度の震災を通して、改めて物流の重要性を認識させられました。道路・鉄道の物流網が寸断された中、物流のプロが連携・工夫し、物資をお届けすることにより被災地の生活が繋がれていく様子を皆さんも確認されていると思います。物流が担っている役割（使命）を理解し、現状に満足することなく、物流を発展させていくよう取り組んでいきます。

話は変わりますが、4月からソリューション営業部に転勤して参りました。工場地区の物流を中心にこれまで培った経験を武器に頑張ります。宜しくお願いします。